

海の神、風の神、森の神、大地の神への祈り

民族のアイデンティティ、共生への光を求めて
アイヌの精神と魂の原点を探るドキュメント映像詩



アイヌとして生きる

大地よ

アイヌとして生き、古布絵や詩の表現へ
アイヌの精神を問い続ける宇梶静江の世界

入場無料

申込不要

第1回

2024年10月13日 ④ 14:00~15:45

第2回

2024年10月20日 ④ 13:00~14:45

両日、宇梶静江さんによる
ミニトークとサイン会あり

会場 しらおい創造空間「蔵」

※裏面に地図があります。

出演：宇梶静江

ナレーション：宇梶剛士

プロデューサー：藤原良雄

監督 音楽 撮影 構成：金大偉

構成協力：能澤壽彦 編集：吉野直子 アイヌ伝統歌：宇佐照代 他 写真：山本桃子

制作進行：藤原洋亮、山崎優子 制作協力：TAII Project、TP、STUDIO、Academy Apollo 他

2023年度作品/カラー/105分/STEREO/ハイビジョン/16:9/日本



【予告篇】



企画・製作：藤原書店



白老文化芸術共創
ROOTS & ARTS SHIRAOI



多文化共生のまち、しらおい



令和6年度日本博2.0事業(委託型)

主催：白老文化観光推進実行委員会/独立行政法人日本芸術文化振興会/文化庁
共催：一般社団法人アイヌ力

問い合わせ：白老文化観光推進実行委員会 (担当：井上)
電話▶ 080-5459-7788 メール▶ ainugaku@gmail.com



3年前に宇梶静江さんは志し高く白老に居を構え「アイヌカ(ぢから)」という組織を確立し、アイヌ学舎シマフクロウの家に集い、語りアイヌ文化伝承の足跡を築いています。高齢により病に倒れ療養しながらも、その思いは変わらず、アイヌの未来を見つめております。2023年には、北海道知事より北海道文化賞を受賞。2024年に、アイヌ民族文化財団よりアイヌ文化賞を受賞しました。

映画「大地よ!」は3年前に白老で上映されましたが、更に編纂を重ね完成された「大地よ!」は東京初め道内各地で宇梶静江さんのアイヌの精神性が高く評価されています。

皆様お元気でお過ごしでしょうか。おかげさまで、私たち一般社団法人アイヌカの運営する「シマフクロウの家」では、月1回のイベントを開催しています。イベントでは、アイヌの権利を語り合ったり、伝統工芸に取り組んでいます。今年、骨折などもあり、大変なこともありましたが、今後はアイヌの美術館を作りたいと思っています。皆さまに、会場でお会いできることを楽しみにしています。



人間らしい生き方とは何か? 自然に生きるアイヌ文化とは何か? 今こそ響く、アイヌの知恵が蘇る

宇梶静江というアイヌの女性が、大自然そのものの隠喩に他ならないことを物語っている。彼女は巨大な自然、つまりマイクロコスモスの前に、ただ一人、マイクロコスモスとして向かい合っているのである。
四方田犬彦(映画史家・比較文化学者)

語りというよりも、祈りである。つつましく、カブよく、万物に向けられた祈り。万物に宿るカミに向けたカムイノミ(神への祈り)。自我を放擲した、脱中心化された、すべてを包み込む祈り。ことばがこれほどに簡潔で深い包容力を湛えた声として表出されることはいまや稀なことである。
今福龍太(人類学者・批評家)

私たちはまだ、この自然の中に抱かれた溢れる喜びを、取り戻す事ができる! 宇梶さんの美しい詩と共に、私たち自身がその力を思い出さなければいけない、と思います。今を生きる、これからを生きるすべての人に「大地よ」を観て、そしてもう一度大自然の豊かさを感じてほしいです。
加藤登紀子(歌手)

90歳を前に、東京から故郷北海道へ戻った静江さん。何故? その目的は? 人々が守り伝えて来たものとは?
鈴木敏夫(スタジオジブリ プロデューサー)

母なる海の波の映像は宇梶静江さんやアイヌの人たちの長い人生と重なり引き込まれる。ラストシーンの雪のなかを歩く姿から、アイヌが受けてきた差別などの苦悩、孤独、そして乗り越える力強さや確たる誇りが滲み出ている。深い意味と価値が詰まった作品である。
大石芳野(写真家)

私はこの映画を通じて、変えられないもの、変わるはずがないことを、「自ら意思してなること」によって変えられるということを知った。現代風にアレンジされた伝統歌が力強かった。
町田康(作家・ミュージシャン)

大きくて偉大で掴みたいもの、かつて知っていたいまは忘れてしまったもの、ひどく懐かしいもの、いつかどこかで確かに聞いたり出会ったりした大切なもの、そんなものたちが彼女の向こうから、直接話しかけてくるような気がする。
高橋源一郎(作家)

その精神性には、今の世界を救う鍵が隠されている。その手引き書のような本作品から垣間見える、ひとりのアイヌ人女性のまなざし。そのまなざしが向かう先を想像している。
河瀬直美(映画監督)

戦争のない世界を、本当につくれる。なぜならそれは、在ったし、在るのだから。今、世界に必要な叡智として、アイヌを知ろう。
赤坂真理(作家)

人生の最晩年をアイヌとして全うし、この理不尽極まりない人間世界の衆愚を一身に背負って、大地の神の生贄にならんとする覚悟に満ちた、神々しいお姿を、その映像に刻んでいます。
佐々木愛(劇団文化座代表・俳優)

カムイはシベリア諸民族ではエジェ・主(ぬし)である。人間は自然界・カムイに生かされているのだーこの確たるアイヌの世界観こそが、今危機にある地球大地の救世になるのだというメッセージには大いに我が意を強くしました。
荻原真子(民族学研究者)

同時開催

Handiwork from 白老の手仕事展

SHIRAOI

2024 10.3[木] → 10.20[日]

10:00~17:00 しらおい創造空間「蔵」ギャラリー1、2階
【定休日】月・火・水 ※祝日除く(10/14月・祝は営業)

会場：しらおい創造空間「蔵」

〒059-0906 北海道白老郡白老町本町1丁目7-5
※駐車場あり
※JR室蘭線「白老駅」下車 徒歩15分/車3分
※詳しいアクセスはQRコードをご覧ください

